

# 大麦管理情報 (第8号)

令和8年4月15日  
農業技術課広域普及指導センター

## 1 気象経過 (図1)

- (1) 3月：平年に比べ、平均気温は7.9℃ (平年差+1.0℃) と高く、降水量は94.0mm (平年比57%) とかなり少なく、全天日射量は14.3MJ/mm/日 (同119%) とかなり多かった。
- (2) 4月上旬：平年に比べ、平均気温は13.6℃ (平年差+3.3℃) とかなり高く、降水量は72.0mm (平年比139%) と多く、全天日射量は11.7MJ/mm/日 (同79%) と少なかった。

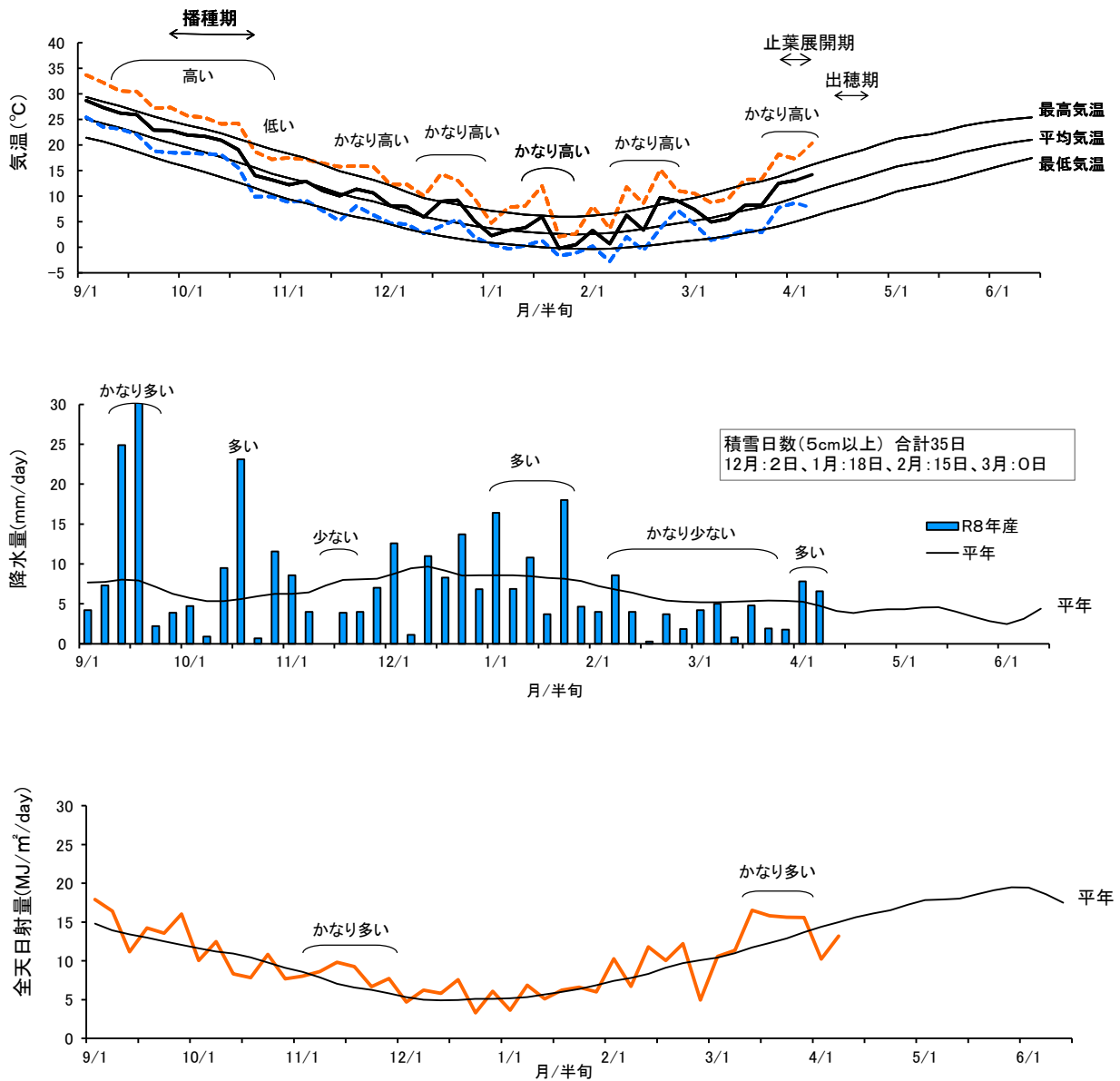


図1 令和8年産大麦生育期間の気象経過 (富山地方気象台)

## 2 生育概況

- (1) 平年に比べ、草丈はやや長く（平年比108%）、㎡当たり茎数は少なく（同比81%）なっている。また、葉色は並（同差-0.4）である（表1、図2、3）。ただし、ほ場や生育ステージにより差がみられる。
- (2) 平年に比べ、幼穂長はやや長く（平年差+0.4cm）、出穂期は早いところで4月11日頃、平均で4月13日頃と平年に比べ2日早くなっている（表1、2）。

表1 大麦の生育観測ほ等の生育状況（4月15日）

年産	播種期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	幼穂長 (cm)
			(本/株)	(本/㎡)			
R8年産	10/6	75.6	2.7	396	14.3	43.6	4.8
R7年産	10/2	56.1	3.0	508	14.8	43.1	3.8
平年	10/6	70.1	2.8	489	13.8	44.0	4.4

注1) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き

注2) R8年産の値は10月下旬播種を除いた平均、平年はH28～R7年産の平均（図2、3も同様）

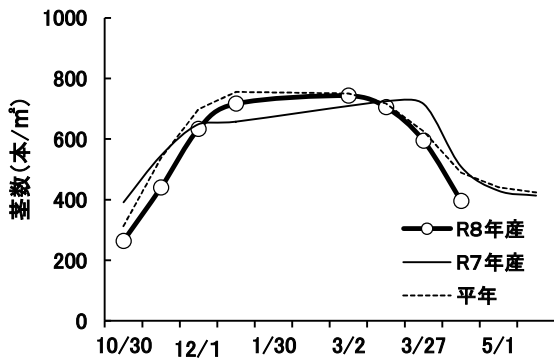


図2 茎数の推移

注) 平年はH28～R7年産の平均

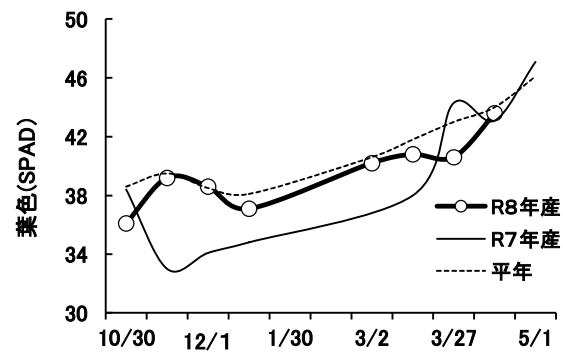


図3 葉色の推移

注) 平年はH28～R7年産の平均

表2 生育ステージ及び成熟期見込み（4月15日現在）

年産	播種時期	止葉展開期	出穂期	成熟期
R8年産	10月中旬まで	4/3 (3/31～7)	4/13 (4/11～16)	5/29
	10月下旬以降	4/8～9	4/19	6/2
R7年産	10月中旬まで	4/10 (4/6～19)	4/20 (4/17～27)	6/2 (5/30～6/6)
平年		4/4	4/15	5/30

今後気温が平年に比べ1℃高く推移した場合、成熟期は5月27日頃が見込まれる。

注1) 斜体の日付は推定日

注2) R8年産の成熟期は富山地方気象台の日平均気温（H28～R7平均）を基にした予測日（図4）

注3) ( )内は、生育ステージのほ場による幅を示す。

注4) 平年はH28～R7年産の平均値

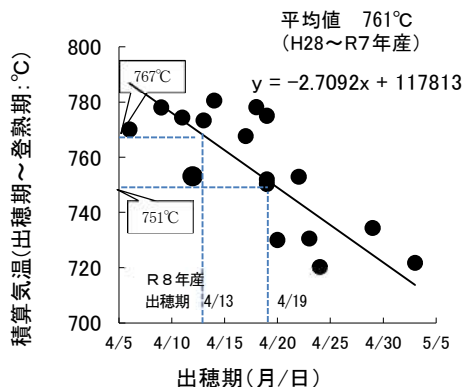


図4 出穂期と登熟期までの積算温度の関係

注) H20～R7年産 生育観測ほの平均値、積算温度は富山地方気象台の日平均気温を使用

### 3 当面の技術対策

検査規格における赤かび粒の混入限度は0.0%と厳しい基準となっているため、赤かび病の防除を徹底する。

#### (1) 赤かび病防除の徹底

- ・ 出穂期は平年に比べ早くなっている。①今後の気温は高いと予報され、防除適期が予測より早くなる場合もあること、②播種時期等により地域やほ場によるバラつきが大きいことから、必ずほ場ごとの出穂状況を確認し、最も効果的な防除時期の穂揃期（開花始め：出穂3～5日後頃）とその7日後の2回防除を徹底する（図5）。
- ・ 防除適期に降雨が多い場合でも、適期に防除することを優先し、短い晴れ間を利用して、確実に実施する（図6）。また、防除効果は粉剤に比べ液剤の方が高いため、特に1回目の防除は、可能な限り液剤を使用し、規定量の薬剤が確実に付着するように散布する。
- ・ 防除効果を高めかつ周辺作物や住宅地への飛散防止を図るため、風の弱い時間帯に散布する。
- ・ 無人航空機で防除する場合は、定められた飛行速度や高度等を守り、均一な散布に努める。

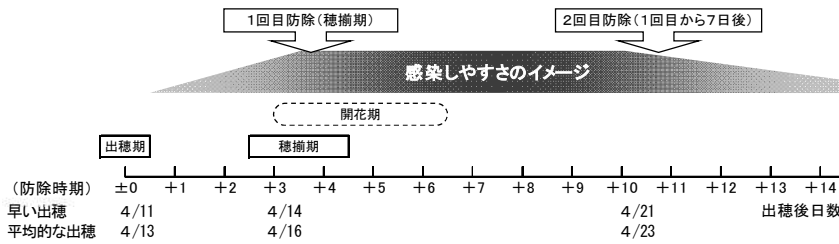


図5 赤かび病の防除スケジュール

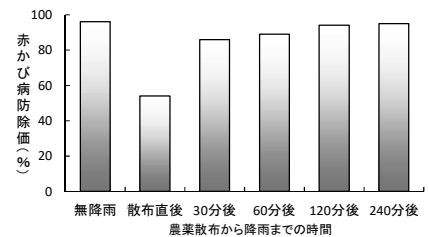


図6 農薬散布から降雨までの時間が防除効果に及ぼす影響

注) 防除薬剤：トップジンM水和剤  
降雨は強い雨 (25 mm/h) を2時間継続して実施  
(農研機構 九州沖縄農業研究センター)

#### (2) 排水対策

- ・ 肥料の吸収効率を高めるとともに、出穂後の登熟条件を良好にするためには、根の健全化が重要であることから、再度、排水溝の手直しや、深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。
- ・ 用水や隣接田からの漏水を防ぐため、水口や畦畔を点検し、湿害を確実に回避する。

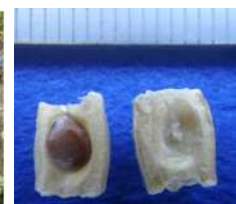
#### (3) カラスノエンドウ種子等異物の混入防止

- ・ 実需者からは異物混入防止の徹底が強く求められているが、カラスノエンドウの種子やハマダイコン（アブラナ科越年生）の莢が製品に混入する事例がみられる。これらが収穫物に混入すると選別・除去が困難である（写真1、2）。
- ・ カラスノエンドウやハマダイコンがほ場内でみられた場合、種子が稔実する前に早期に抜き取る。なお、畦畔のカラスノエンドウは、ほ場侵入前に確実に除去する。
- ・ 収穫前にほ場内のゴミ（空き缶やペットボトルなど）を確認し除去する。



種子 (3mm 程度)

写真1 カラスノエンドウと種子



種子 (3mm 程度)

写真2 ハマダイコンと種子

#### (4) 適期刈取りに向けた準備の徹底

今後も気温が高いと予報され、成熟期が平年より早くなると見込まれることから、コンバインや乾燥調製施設の受入れ等の準備は早めに行う。